

## ■活動レポート

### ■学芸員室より 絶滅危惧種!?

中村 学 (学芸調査員)

今年1月はじめ、当館研究協力員の方から管ビンに入った1匹の昆虫を頂きました。盛岡市内の某総合病院内で、待ち時間に見つけたとのこと。それはチャバネゴキブリでした。多くの人は、ゴキブリと聞いただけで、汚いとか気持ち悪いと言って捨ててしまうことでしょう。しかし当館には岩手県産の標本がなかったので、私たちの価値基準では「貴重な」標本なのです。

岩手に定着しているゴキブリは2種で、一般住宅には黒っぽくて体長3 cm 弱の温帯性の種であるヤマトゴキブリ、年中暖かいビル内には、褐色で体長1 cm ほどの熱帯原産のチャバネゴキブリが見られます。しかし、岩手では、寒さが苦手なゴキブリ類がもともと少ないうえに、衛生状態が良く

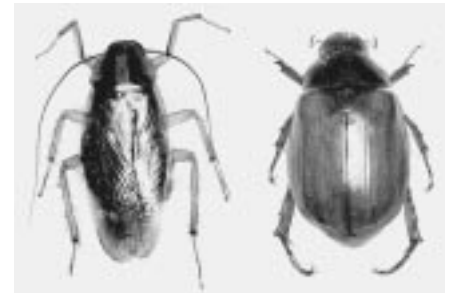
なったこともあり、ゴキブリを実際に見たことがあるという人は意外と少ないようです。岩手県内の分布について調べた文献も非常に少なく、実は珍しい昆虫なのです。

ゴキブリは地球上に3億年以上も前に現れた「生きた化石」で、バッタやカマキリに近いグループです。その完成された形態と適応力で繁栄を続けてしまったばかりに「害虫」になってしまいました。ゴキブリは本来、食器をも食べる「御器嚙」(ゴキカブリ)と言われていましたが、明治の専門書の中で「誤記」されて以来「ゴキブリ」になったものです。その本来の名のとおり何でも食べてしまうので、博物館では衛生害虫や不快害虫としてよりも、書物の食害や糞による汚損の実害に要注意です。

一方、北関東などに「チャバネゴキブリが増えると金持ちになる」という内容の言い伝えがあります。茨城出身の野口雨情作詞の童謡『黄金虫』で、「黄金虫は金持ちだ」

の「黄金虫」とは甲虫のコガネムシではなく、チャバネゴキブリのことだと言われています。印籠やがま口に見たてられる卵鞘(卵が入ったケースのようなもの)を、雌が孵化まで尾部に保持する習性があります。また、チャバネゴキブリの翅は褐色で、黄金色に見えなくもありません。

3億年生き抜いてきた地球の大先輩ですが、今は人間の目の敵にされ、だいが肩身が狭いようです。まさか絶滅に追いやられることはあるまいと思うのですが。



盛岡市内で採集された チャバネゴキブリ 甲虫類の「黄金虫」 (サクラコガネ)

### ■解説員室より 英文パンフレットを片手に!

早坂水智 (解説員)

博物館は一年を通して世界各国からたくさんのお客様をお迎えしています。お客様は、日本や日本語の知識をお持ちの方から初めてアジアや日本に来られた方など、様々なバックグラウンドをお持ちで、個人の興味関心も多種多様です。

外国人のお客様が博物館を見学される際の参考になればと作成しているのが「英文パンフレット」です。これは、年々外国人の来館者が増えるなかで、英語による施設案内を行う担当者が不在の場合や、英文資料を希望されるお客様の声などにお応えするために作成されました。今年度は新しく「英文リーフレット」を作成し、英文パンフレットとともに無料でお配りしています。冊子を片手にじっくりと見学

される方や留学生の参考にと持ち帰られる方もおられ、好評をいただいております。

リーフレットは、企画展など館内の催し物のご案内や施設案内を掲載し、定期的に発行しています。館内の見取り図と各展示室のご案内もありますので、日本語の表示がわからない場合でも、館内を見学していただきやすくなりました。

英文パンフレットでは、常設展示室「地質」「考古」「歴史」「民俗」「現勢」「ミュージアム・コレクション・ギャラリー」の主な展示物を写真と英文で紹介しています。岩手への理解を深めていただくために、日本で最初に発見された恐竜の化石・モシリユウの肢骨、遮光器土偶、平泉文化・毛越寺模型、小正月の行事・オカザリ、イヌワシの山、マエサワクジラの化石、

ワシタカなどを掲載しています。

岩手県には素晴らしい自然・歴史・文化が受け継がれ現代に息づいています。外国人の方にも博物館の訪問を通して岩手への理解、関心を深め、また、日本の風土を感じていただければと願っています。

今後も刊行物の改善を続け、お客様により良いものをお届けできるよう努めていきたいと思っております。英文パンフレットを片手に新しい発見をしてみませんか?

